






令和5年度 第2回徳島県自転車活用検討委員会



1. 「第2次徳島県自転車活用推進計画（案）」について

-  ① パブリックコメントの実施結果
-  ② 今後のスケジュール

2. 路面標示（矢羽根、ピクト等）の標準仕様（案）について

-  ① 自転車通行空間の整備手法と取組状況
-  ② 矢羽根、ピクトの標準仕様（案）
-  ③ ブルーライン・ピクトの標準仕様（案）

3. その他

-  ① サイクリングコース走行調査



1. 「第2次徳島県自転車活用推進計画（案）」について

1. 意見の募集期間

令和5年7月11日（火）から令和5年8月9日（水）まで

2. 意見の提出者数と件数

○提出者数：11名

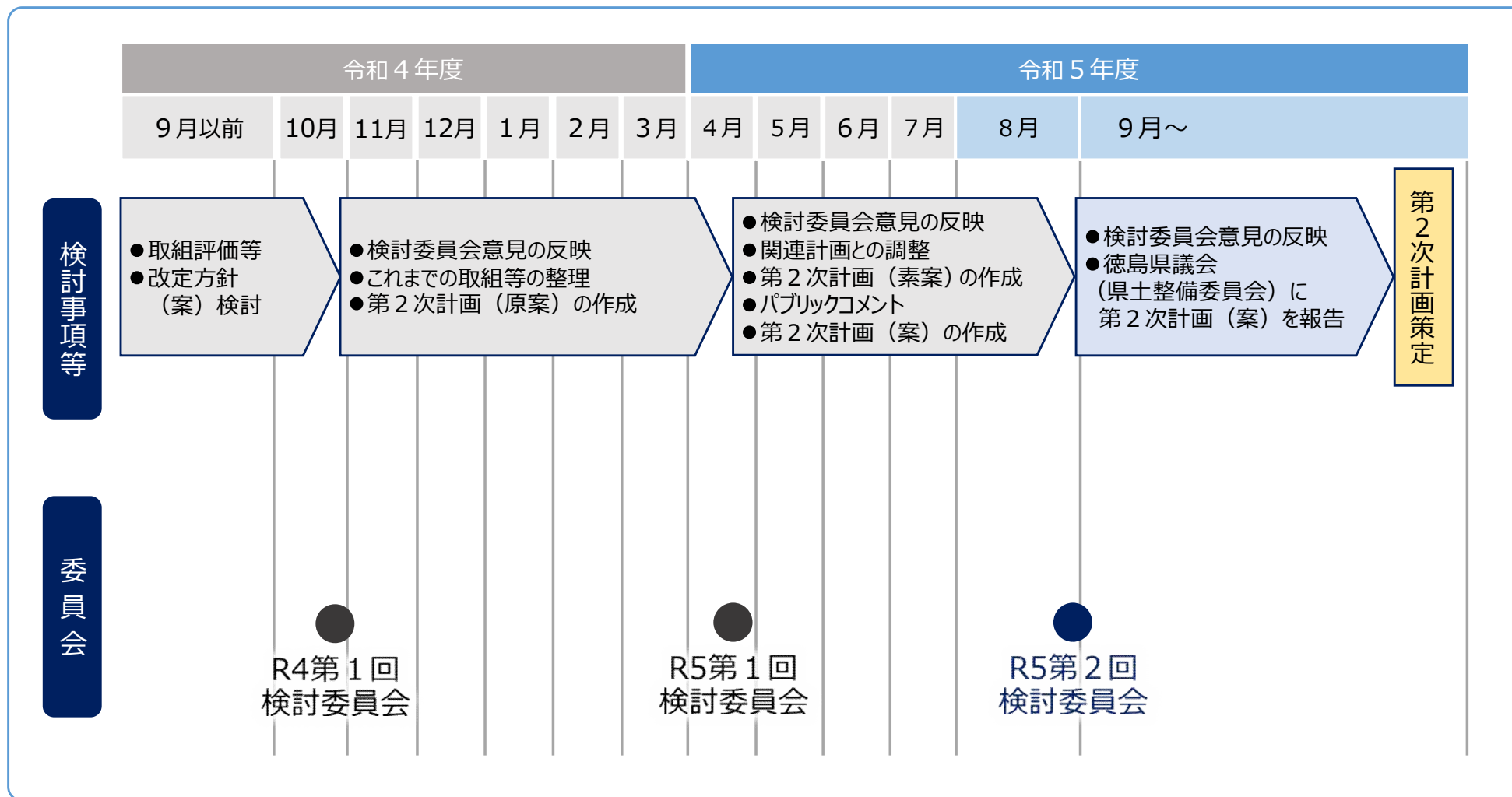
○件数：18件

・サイクリングコースに関すること	3件	・拠点施設整備に関すること	2件
・イベント、ツアーに関すること	1件	・道路施設整備に関すること	6件
・大鳴門橋への自転車道設置に関すること	3件	・交通安全、ルールに関すること	2件
・情報発信に関すること	1件		

3. 主な意見と対応（案）【資料2参照】

項目	意見要旨	対応（案）	計画案 該当 ページ
イベント、ツアー	□ 大規模なロードレース開催前後に、少人数のガイド付きツアーを企画してはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ガイド付きポタリングツアー等の企画 ■ サイクリングガイドの育成 	P33 P48～P49
大鳴門橋への自転車道設置	□ 大鳴門橋自転車道について、繁忙期における渦の道利用者と自転車の混在に対する安全対策に充分留意して計画してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大鳴門橋自転車道検討部会等において、使用できる車種の制限や繁忙期における入場制限等の安全対策について引き続き、検討 	P25～P27
交通安全、ルール	□ 高齢者の電動アシスト付き自転車等の利用に関する記述が必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 安全利用のための啓発活動等を行うことにより、電動アシスト付き自転車等の多様な自転車の普及を推進 <p style="color: red;">⇒施策4-3に高齢者等の電動アシスト付き自転車の利用について追記</p>	P54

- 令和5年 8月～ パブリックコメントの意見を踏まえた第2次計画（案）とりまとめ
9月～ 徳島県議会（県土整備委員会）に第2次計画（案）を報告
第2次計画策定



2. 路面標示（矢羽根、ピクト等）の標準仕様（案）について

自転車通行空間整備に係る経緯

～H23 自転車歩行者道の色分けによる通行空間の整備
 H24～ ガイドラインに基づき、車道側の状況に応じた通行空間の整備に転換

	① 自動車の速度が高い道路 【目安：50km/h超】	② A, C以外の道路	③ 自動車の速度が低く 自動車交通量が少ない道路 【目安：40km/h, 4000台以下】
整備形態	自転車道 【構造的な分離】	自転車専用通行帯 【視覚的な分離】	自転車と自動車を混在通行とする道路
整備イメージ	<p>緑石線等 歩道 自転車道</p>	<p>歩道 自転車専用通行帯 車道</p>	<p>ピクトグラム等を設置 歩道 車道</p>
整備事例			

「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」抜粋

整備すべき自転車通行空間

日常的な自転車利用

ツーリズムやスポーツとしての自転車利用

自転車ネットワーク路線

市町村が地域の課題やニーズ、
交通状況等を踏まえ、
自転車活用推進計画（市町村版）
において選定

サイクリングコース

四国一周1,000kmルート
Tラインコース
自転車王国とくしま公式コース（26コース）
Go around コース（4コース）
ASAトライアングルコース ……

整備対象

構造的な分離/視覚的な分離/混在
路線・区間毎に整備形態検討

統一した仕様による案内
迷わず安心・安全に走行できる
通行環境整備

整備手法



都市部等で左記のような整備 +



+ 受入環境・情報発信・取組体制

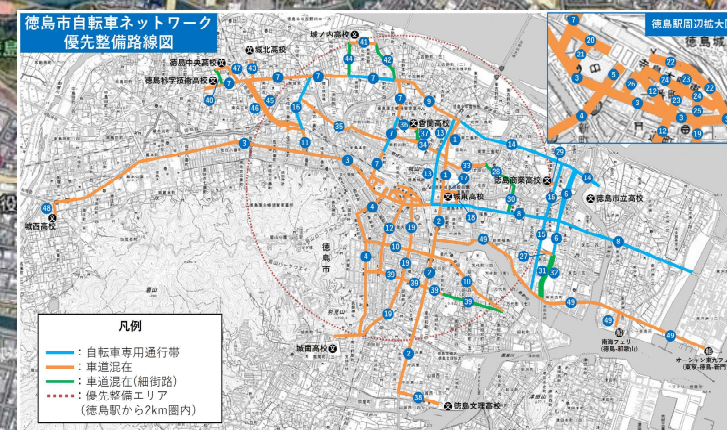
取組状況（日常的な自転車利用）

徳島市内の自転車通行空間整備（モデル地区、ネットワーク路線）



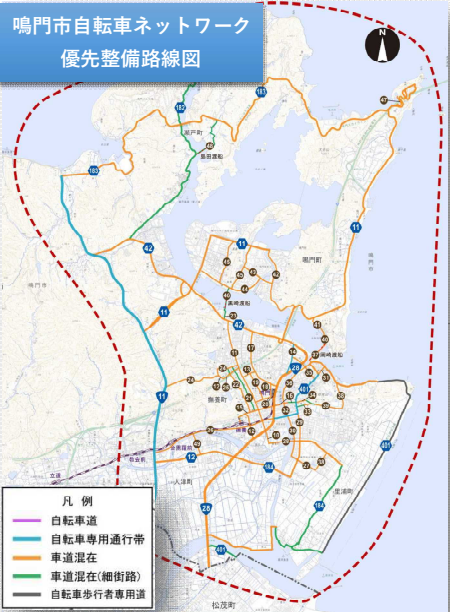
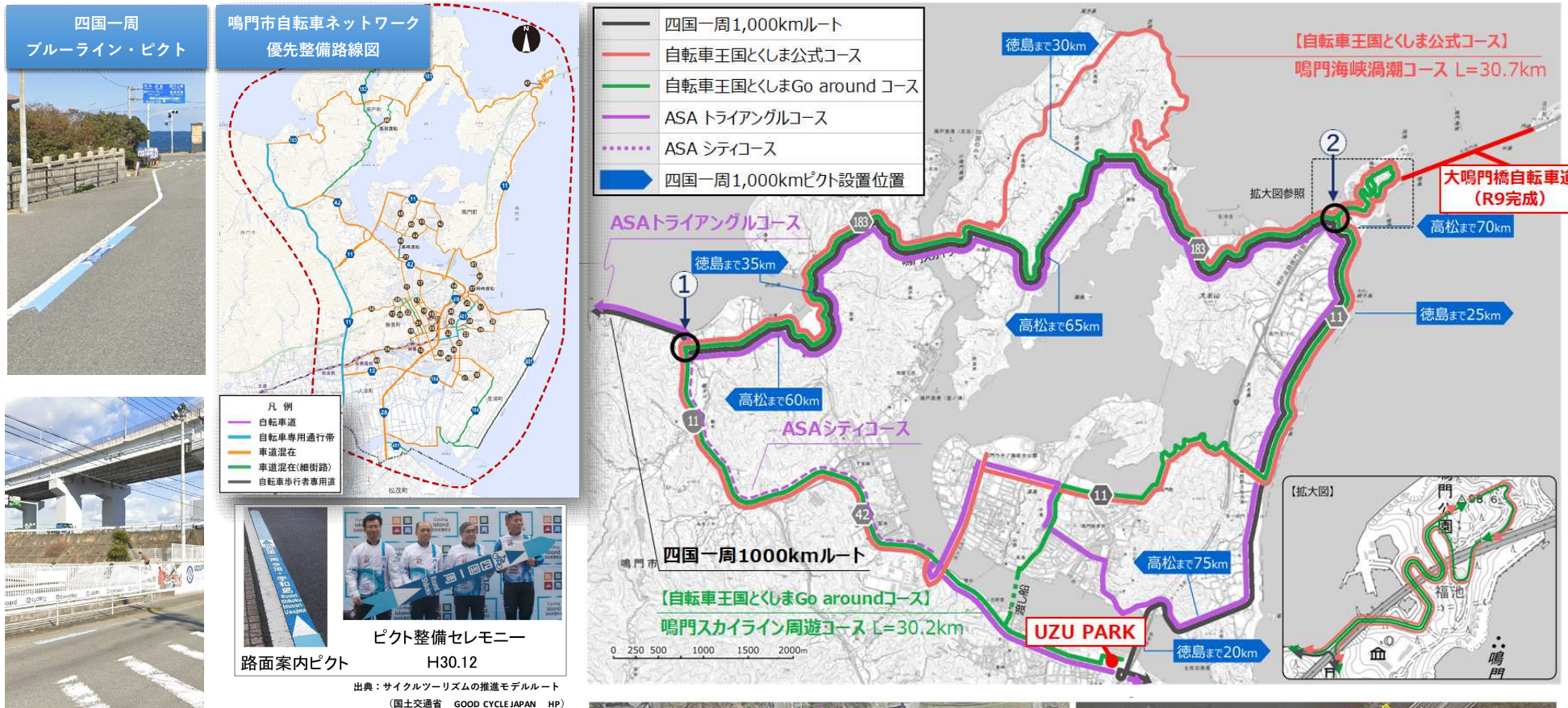
今後の進め方

- 自転車活用推進法に基づく、「自転車活用推進計画(市町村版)」の策定支援 (徳島市、鳴門市は策定済)
- 自転車活用推進計画(市町村版)で選定された「自転車ネットワーク路線」の整備促進
- 矢羽根・ピクト・ブルーラインの「標準仕様」の策定



取組状況（ツーリズムやスポーツとしての自転車利用）

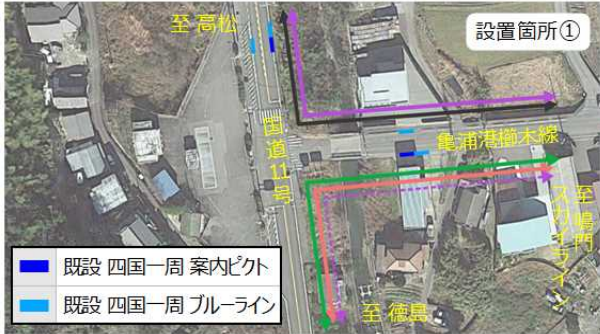
鳴門市内の自転車通行空間整備（ネットワーク路線、周遊ルート計画）



今後の進め方

○大鳴門橋自転車道（R9年度完）を見据えた「サイクリスト受入環境の整備」（例えば、県内周遊ルートの案内表示等）

※「大鳴門橋自転車道検討部会」にて議論



1. 概要

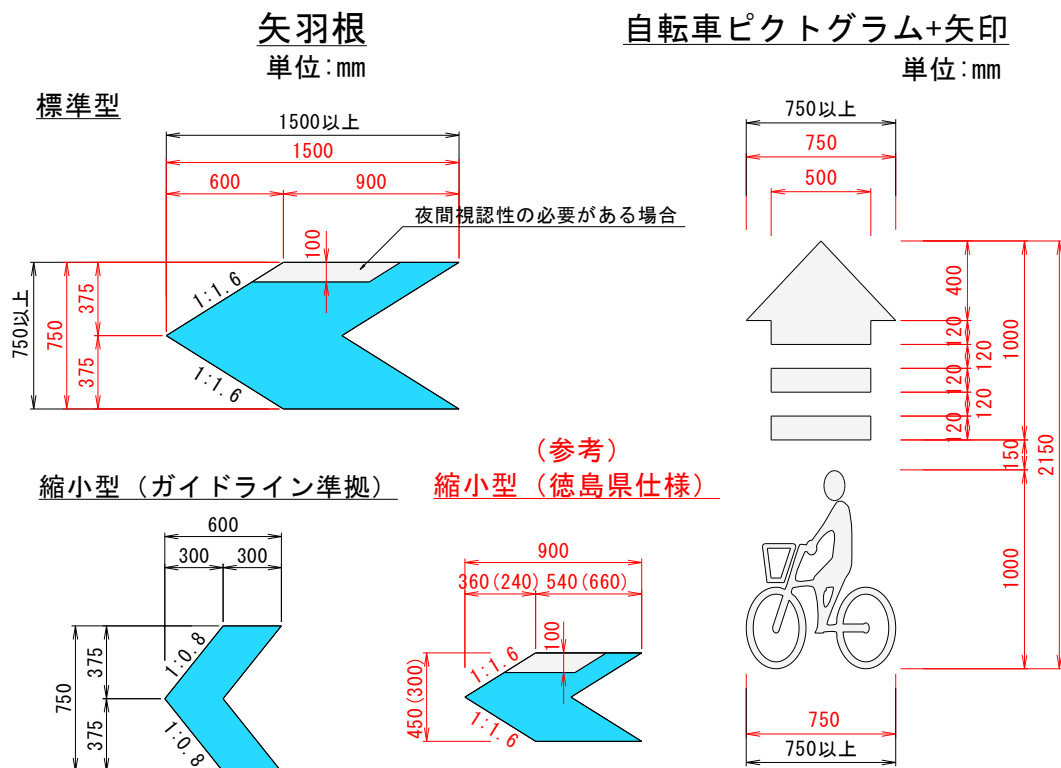
自転車通行空間の設計を円滑に進めるため、自転車通行空間に設置する路面標示（矢羽根、ピクト）について、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」（以下、ガイドライン）では、明確に記載されていない事項等について、徳島県内の標準仕様（**赤文字・寸法**）として補足的に示す。

※路面標示（矢羽根、ピクト）の設置目的

自転車の通行位置・方向を明示することで、自転車通行の安全性確保と利用者の車道走行、一方通行の意識付け及びドライバーに対し、自転車への注意喚起を図る。

2. 標準仕様（案）【資料4参照】

（1）路面標示の寸法・色彩



ガイドライン

■ 矢羽根

- 帯状路面表示及び矢羽根型路面表示の色彩は**青系色**を基本とする。
- 道路幅員が狭く、歩行者を優先させる道路（生活道路）等では、必要に応じ、自転車の通行位置を適切に示すことができる範囲で、**コンパクトな仕様**とすることができる。
- 夜間の視認性を向上させる必要がある場合には、矢羽根型路面表示の**縁に白線を設置**する等の対応をとる。

■ 自転車ピクトグラム

- 自転車のピクトグラムは、自転車の進行方向に対して左向きとし、進行方向を示す**矢印との組み合わせを標準**とし、これらの色彩は**白系色**を基本とするものとする。
- 自転車のピクトグラム及び併記する矢印は、幅0.75m以上とし、外側線に重ならないように設置することが望ましい。

(2) 路面標示の設置位置及び間隔（単路部）

歩道有り、外側線有り、路肩狭い

【矢羽根を車線内に表示】

【矢羽根を外側線の下に重複させて表示】

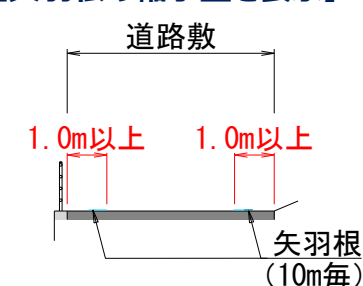
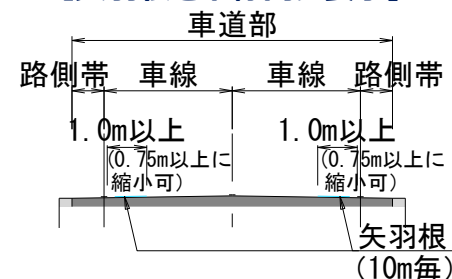
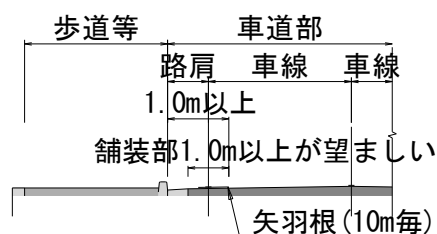
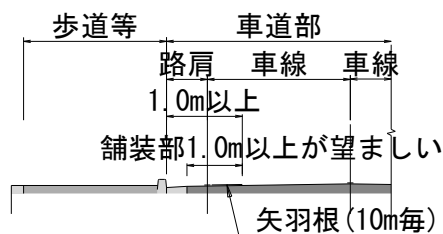
歩道無し、外側線有り

【矢羽根を車線内に表示】

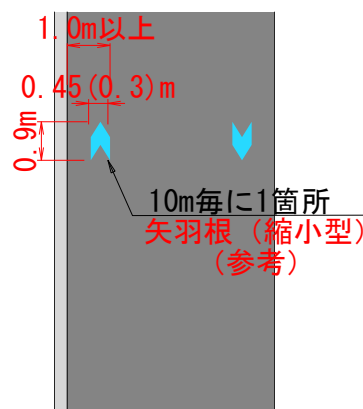
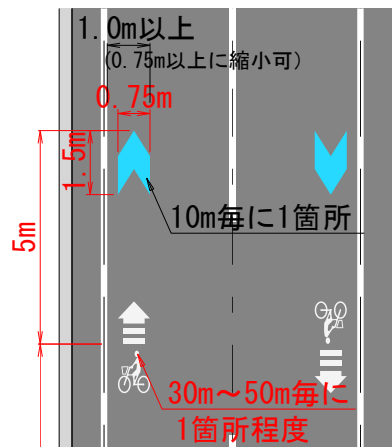
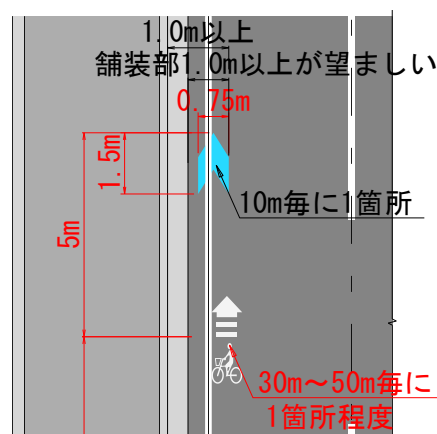
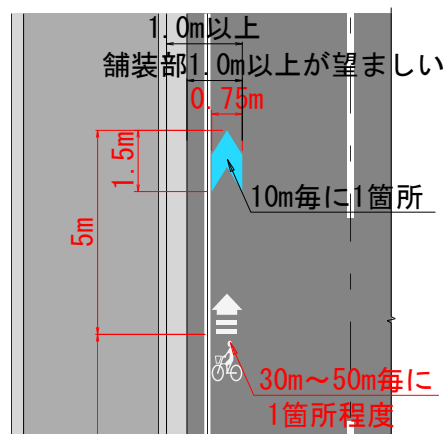
歩道無し、外側線無し

【矢羽根の縮小型を表示】

断面図



平面図



■ 矢羽根

- 歩道のある道路 矢羽根型路面表示の右端が路肩端から1.0m以上
- 歩道のない道路 原則として、矢羽根型路面表示の右端が車道外側線から車線内1.0m以上（交通状況に応じて0.75m）
- 舗装部分の幅員は、側溝の蓋部分を除いて1.0m以上確保することが望ましい。
- 車道外側線の下に重複させて設置できるものとする。
- 設置間隔は10mを標準(※)とし、交差点部等の自動車と自転車の交錯の機会が多い区間や、事故多発地点等では設置間隔を密にする。

■ 自転車ピクトグラム

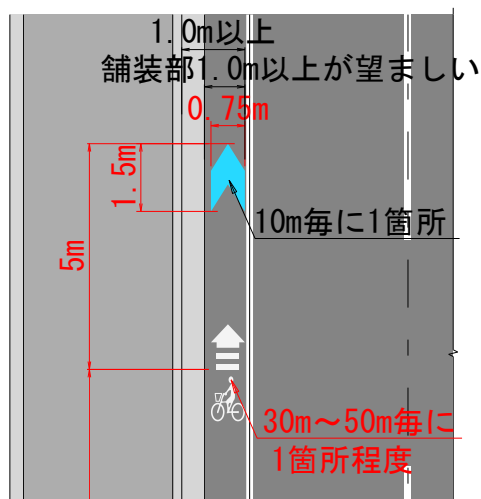
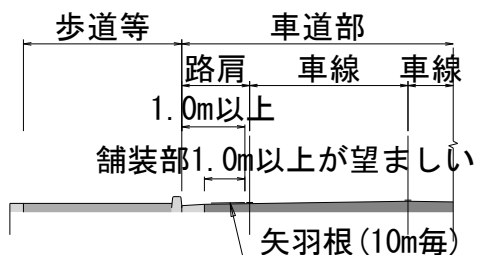
- 交差点部の前後や自動車と自転車の交錯の機会が多い区間等に設置することを基本とする。
- 車道混在において矢羽根型路面表示と併用する場合は、単路部では矢羽根型路面表示よりも広い間隔で設置できるものとする。

※交通量の少ない生活道路等では、設置間隔を広げることができるものとする。

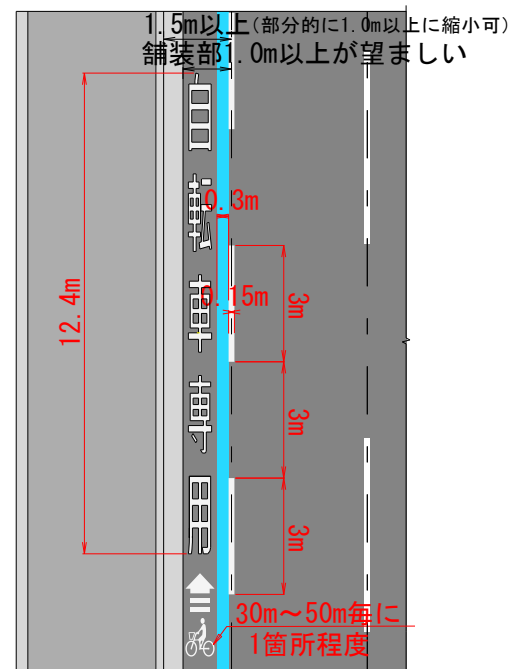
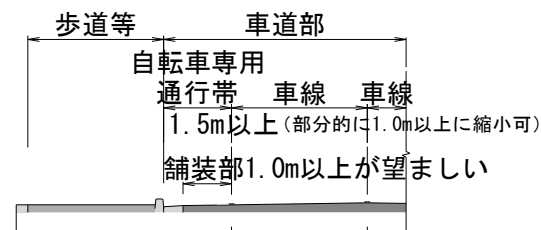
(3) 路面標示の設置位置及び間隔（単路部）

歩道有り、外側線有り、路肩広い

【矢羽根を路肩に表示】



【自転車専用文字を路肩に表示】



断面図

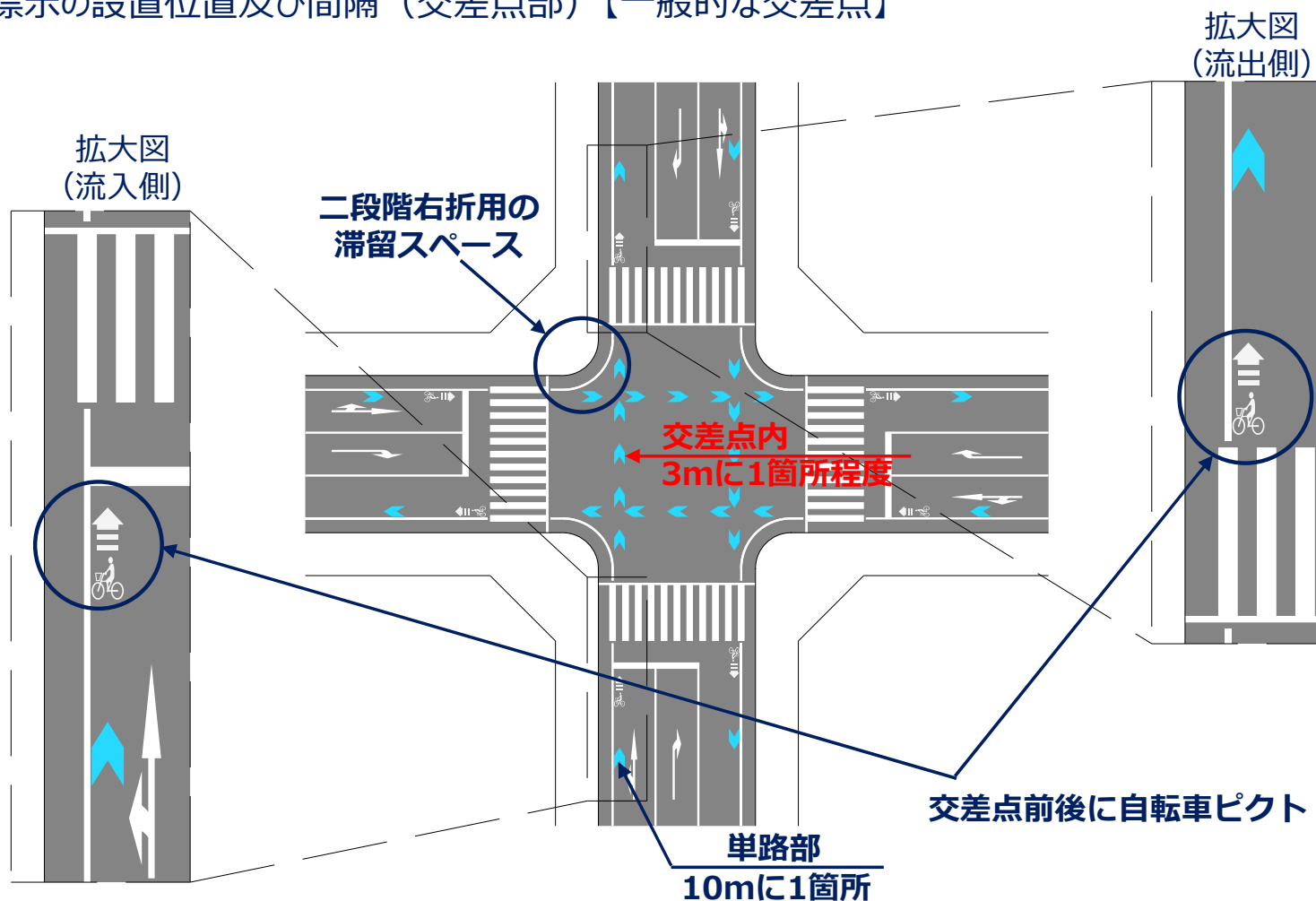
平面図

ガイドライン

■ 自転車専用通行帯

- 带状路面表示の幅は、自転車専用通行帯の幅の**全部もしくは一部のいずれかを選択**
- 幅員**1.5m以上を確保**（やむを得ない場合は整備区間の一部で**1.0m以上まで縮小可能。側溝の部分を除いて舗装部分の幅員を1.0m程度確保**することが望ましい。）
- 車両乗り入れ部から進入する自転車の逆走を防止するため、**自転車のピクトグラムと進行方向を示す矢印を設置**する。

(4) 路面標示の設置位置及び間隔（交差点部）【一般的な交差点】



■ 一般的な交差点（主道路、従道路とも車道混在の場合）

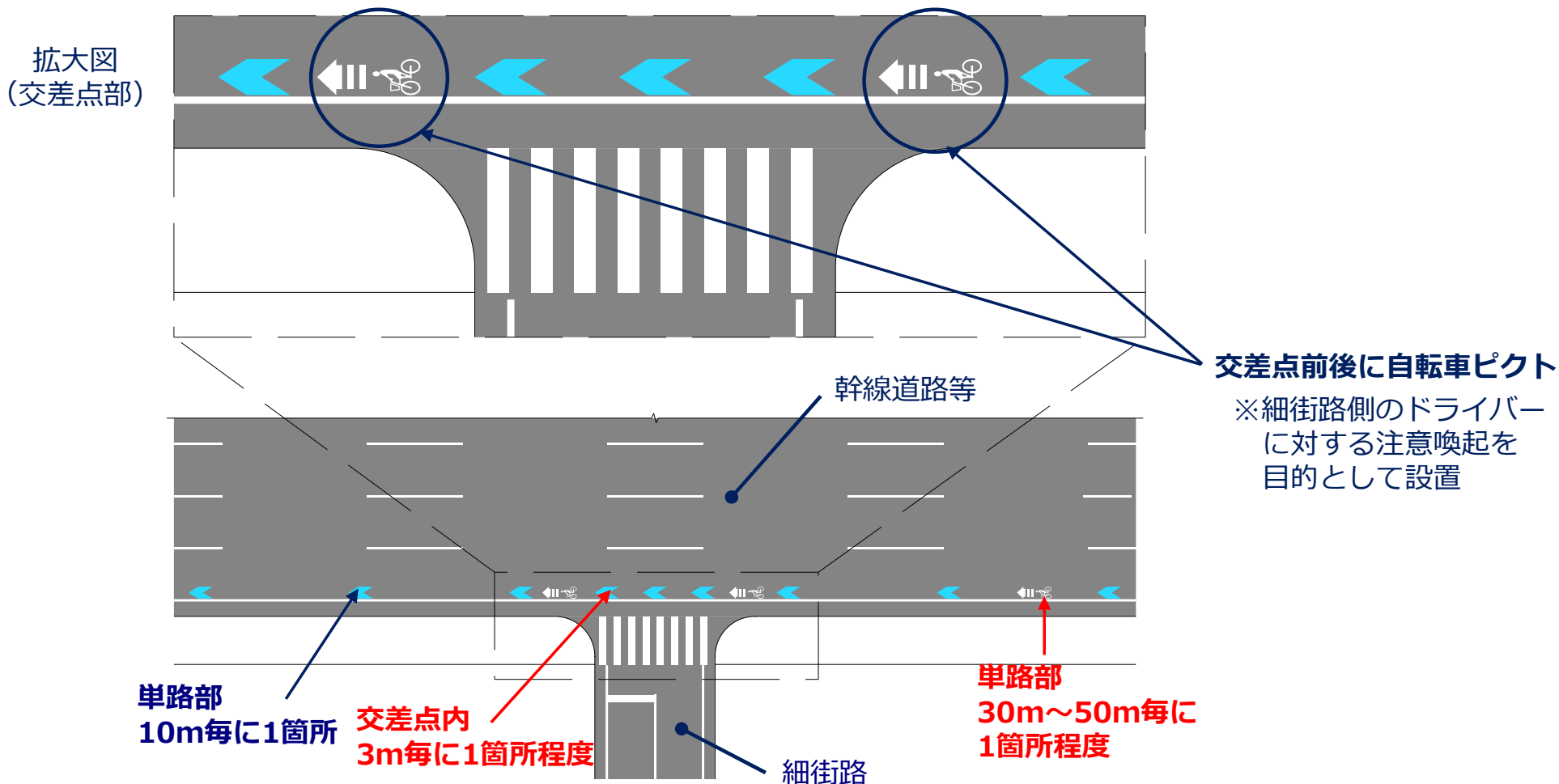
- 交差点内に二段階右折時の自転車の滞留スペースを確保。
- 自転車の直進性を確保し、進行方向を明確化するため、交差点部には道路標示「自転車横断帯（201の3）」を設置しない。
- 自転車が行くと想定される車道左側端まで道路標示「停止線（203）」を設置。
- 自転車道又は自転車専用通行帯が打ち切られた場所から停止線までの間及び交差点内の自転車通行空間の延長線上の部分の路面に矢羽根型路面表示を設置。

ただし、流入側においては、停止線から横断歩道に掛かる部分には設置しないものとし、流出側においては、横断歩道に掛かる部分は設置しないものとする。

(5) 路面標示の設置位置及び間隔（交差点部）【特殊な交差点】

細街路交差点

※幹線道路等に対し、細街路からの横断を想定しない交差点



ガイドライン

■ 細街路交差点（車道混在との交差点との場合）

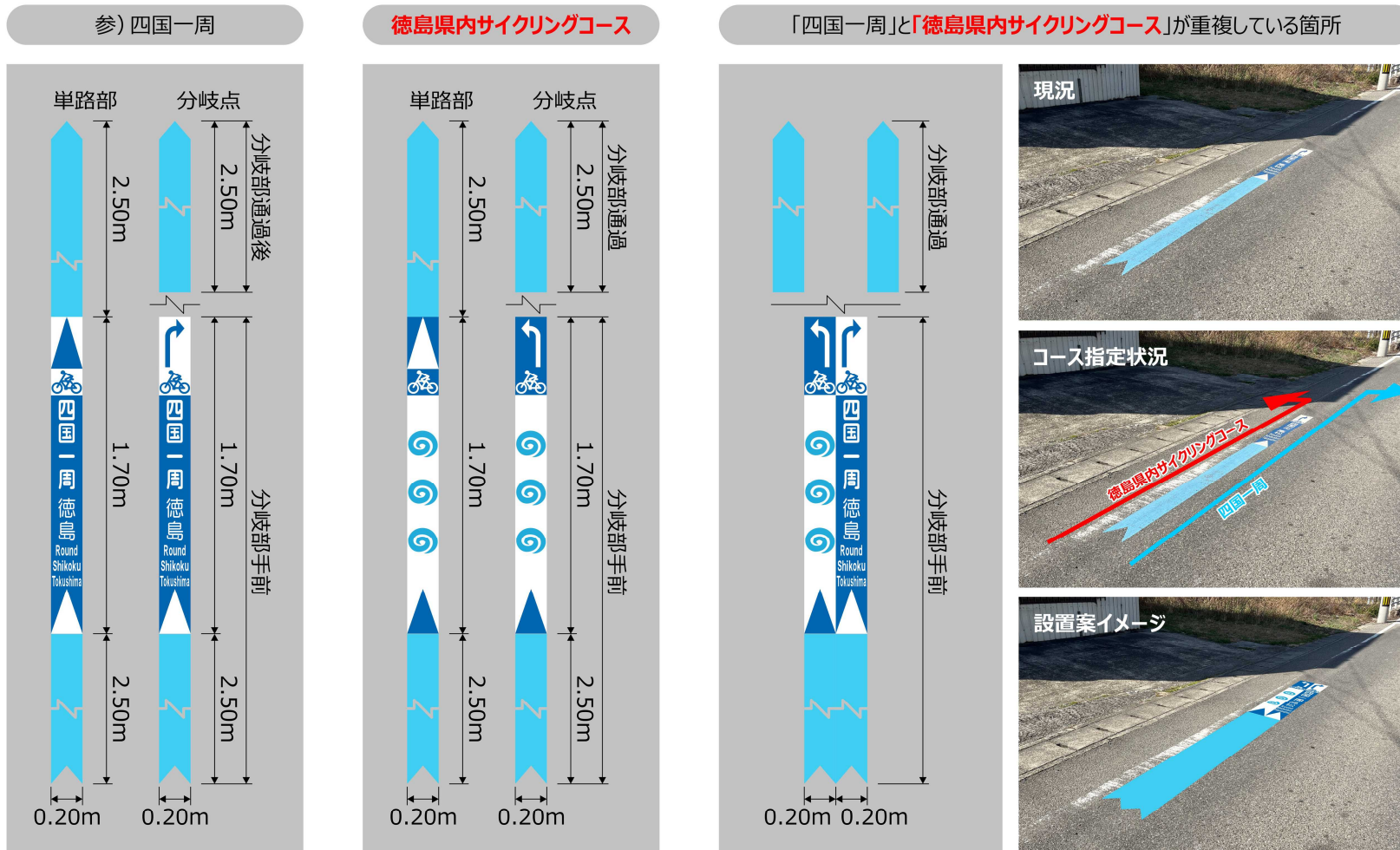
- 細街路との交差点部においても、自転車の通行位置、通行方向を明確化する**矢羽根型路面表示**を設置。
- 交差点流出入口において、自転車の通行方向を明確化するために、**路面表示（ピクトグラム等）**を設置することが望ましい。
- 細街路との交差点の存在を明確にするため、**交差点部のみ路面表示の間隔を密に**することが考えられる。

1. 概要

誰もが迷わず安心して走行できる環境整備のため、徳島県下で統一した仕様によるサイクリングコースの案内表示を設置する。

2. 標準仕様（案）【資料5参照】

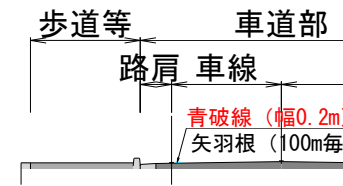
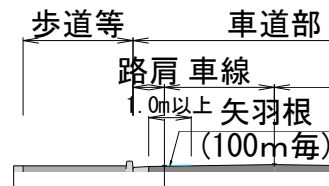
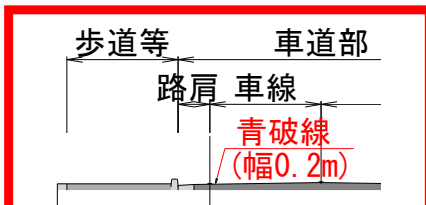
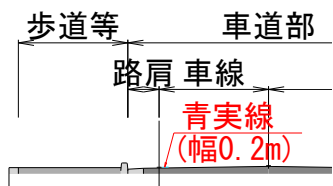
（1）ブルーライン・ピクト（コース案内）



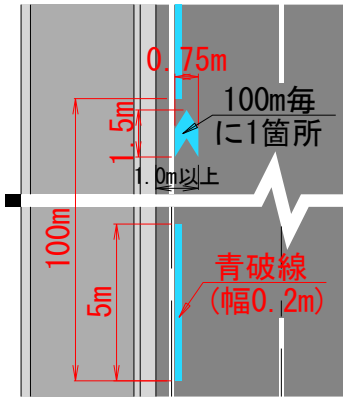
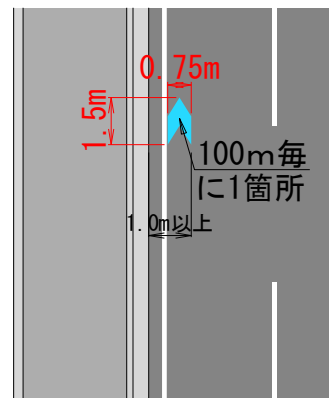
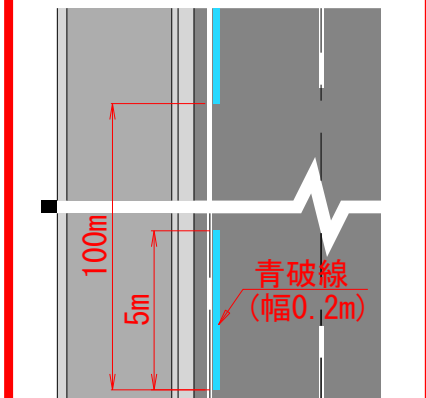
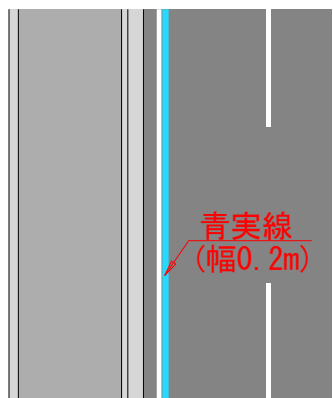
- 単路部は概ね5kmごと、分岐部は必要箇所全箇所に設置。（ナショナルサイクルルートの要件を考慮）
- コース名は走行時の視認性を考慮してコース毎に設定したピクトでの表示とする。

(2) 単路部でのコース案内の比較 【外側線を有する場合】 ※ (1) の補完的に整備

断面図



平面図

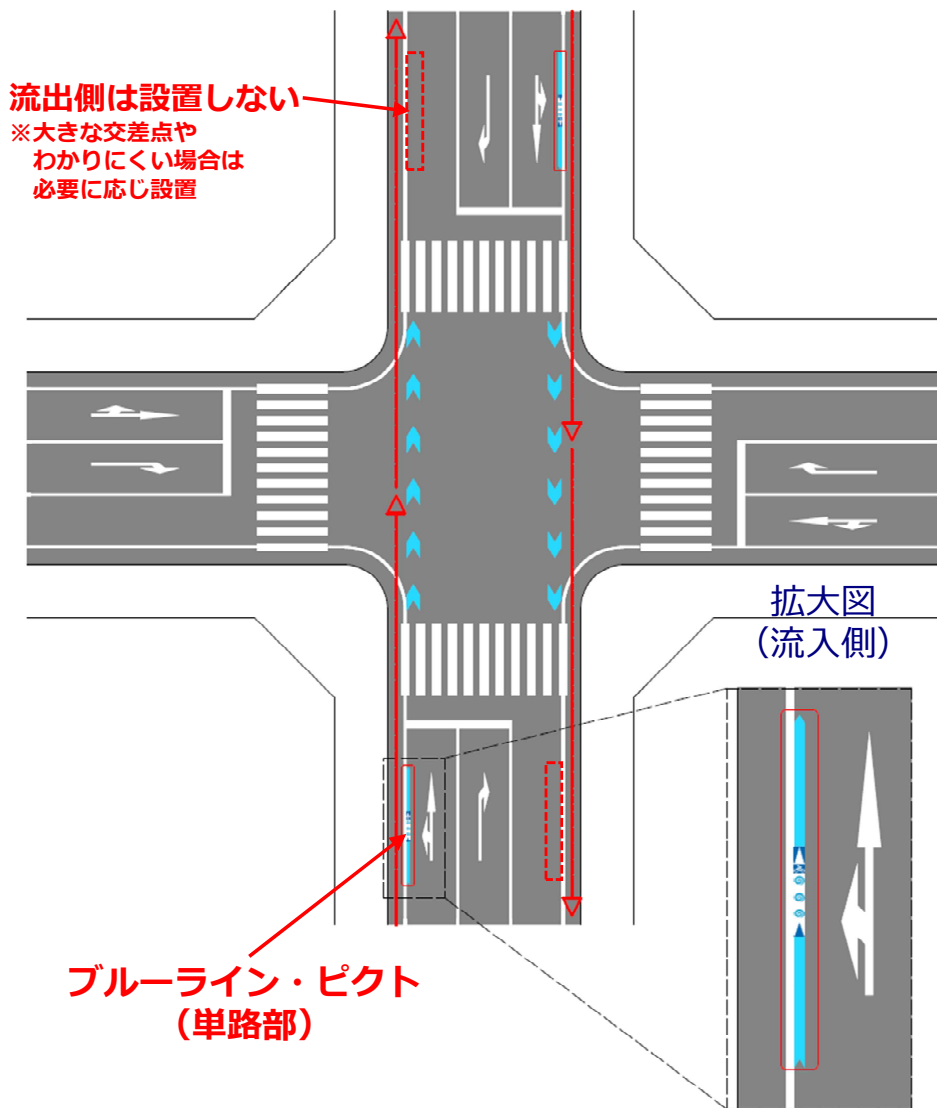


案内表示	案1：ブルーライン (連続線)	案2：ブルーライン (破線 100mごと)	案3：矢羽根 (100mごと)	(参考) ブルーライン (破線) + 矢羽根 (100mごと)
案内の 分かり易さ	◎ (案内が連続的)	○ (案内が連続的)	× (自転車通行空間と混同)	○ (案内が連続的)
整備費用	△	○	○	○
ナショナル サイクルルート要件 (走行環境)	△ (当面の間は認められる)	△ (当面の間は認められる)	◎	◎
ガイドライン	△ (自転車専用通行帯と混同)	○	◎	○

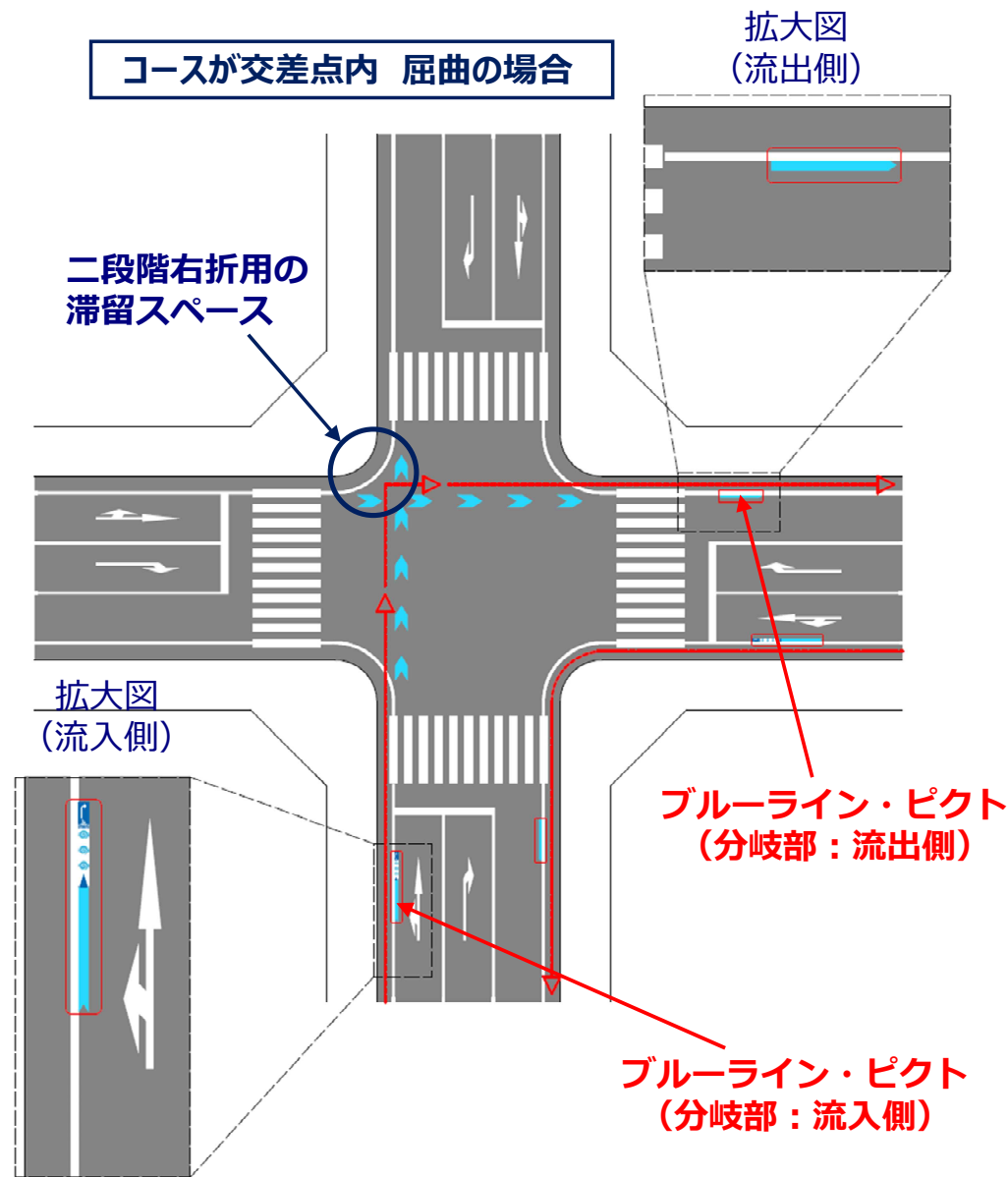
- **ブルーライン (破線) を100mごとに設置**する。あわせて、ガイドライン等に基づき、矢羽根等の自転車通行空間の整備を行う。

(3) 交差点でのコース案内

コースが交差点内 直進の場合



コースが交差点内 屈曲の場合



- コースが交差点内直進の場合は、**ブルーライン・ピクト (単路部)** を流入側のみに設置
- コースが交差点内で屈曲する場合は、**ブルーライン・ピクト (分岐部)** を流入側及び流出側に設置
- 交差点内の路面標示 (矢羽根、ピクト等) の設置方法は、ガイドライン及び県の仕様に準ずる。

3. その他

1. 目的

危険箇所、案内不十分な箇所、ビューポイントの調査

2. 調査ルート

TラインT 5おすすめルートの一部
(阿南徳島自転車道と史跡を巡るルート)

3. 実施時期

令和5年10月～11月

4. 参加者

検討委員会委員、オブザーバー及び事務局

5. コース上の見所・楽しみ



①しおかぜ公園



②阿南徳島自転車道



③立江寺



④旗山



出展：国土地理院・基盤地図情報をもとに作成